



# 新 生

第 47 巻 号  
第 冬 号  
新 生 会 広 報

いま 今いまし、<sup>むかし</sup>昔いまし、<sup>のち</sup>後きたり<sup>たま</sup>給ふ<sup>しゅ</sup>主なる<sup>ぜんのう</sup>全能の<sup>かみ</sup>神いひ<sup>たま</sup>給ふ

『<sup>われ</sup>我はアルパなり、オメガなり』

—ヨハネの黙示録 第1章8節—

*I am Alpha and Omega, the beginning and the ending, saith the Lord, which is, and which was, and which is to come, the Almighty.*

—THE REVELATION OF ST. JOHN THE DIVINE—

## 後藤静香記念館に学術のいかり

中澤 宏則

一九六七年七月のこと、園田治氏を団長とする心の家北海道大会のための見学団（八四名）が旅立った。旅の最後の日の朝「群馬県榛名高原の後藤静香ゆかりの地に静香記念館を建設すること」が決議された。

実行委員三人が選ばれた。原正男（新生会創立者）、中山隆祐（後に心の家代表理事）、園田治（九州の後藤静香資料室「旭光園」園主）の三氏である。

原先生は、長寿社会では病弱と孤独が重大な問題だと考えられ、心の友が朝夕語り合いながら、自然と親しむ生活、健康・質素・和合を柱とする楽しい邑づくりを実現していた。

開邑は一九六六年である。今から実に六十年近くも前のことである。スゴイ先見の明である。心の家の中山隆祐先生が用地を提

供し、建設資金は目標をはるかに上回る九一〇万円の募金が集まった。資料収集は初代館長の加藤善徳先生が述懐したように、完璧に寄贈された。

加藤先生は私たちに、将来後藤静香の研究者が記念館を訪れる日が必ずやってくる、と断言することしば

しばであった。そして今回画期的なことに発展することになる研究者が現れた。早稲田大学教育学部の和田敦彦教授である。和田先生は、貴重な雑誌の復刻を提案し、出版社との話もつけてくれた。その復刻を京都の琥珀書房が引き受けてくれた。「希望社時報」「希望の日本」「泉の花」の三点である。

十二月初旬には復刻のための撮影を終える。和田先生が解題を書かれ、二〇二六年に刊行の予定である。

心の家は、一九九九年十二月をもってその幕を閉じた。その時に後藤静香記念館は社会福祉法人新生会に移管された。

わたしは新生会の原慶子理事長から三代目の記念館長職を拝命した。満八十歳をむかえたはじめの第一歩に素晴らしい贈り物をいただいた想いである。ただただ大感謝するばかりである。

### 中澤宏則

一九四四年、神奈川県横浜市生まれ  
高崎高校、早稲田大学第一法学部卒業後、岡三証券入社、岡三経済研究所、岡三ファイナンスを経て退社。  
現在新生会理事・後藤静香記念館長。

尽きせぬ悦び

「夜は夜もすがら

なげき悲しむとも

朝には悦び歌わん」

どのような暗い夜にも

きつと明るい朝がくる

あさ日はのぼる

鳥は歌う

「憂いの雨は夜のまにはれて

つきせぬ悦び

あさ目とかがやかん」

後藤静香著

「天よりの声」より



原 慶子

心の灯台・内村鑑三

二〇二四年十一月二六日、共愛学園学園長の大川義先生による公開教養講座が開催されました。演題は「心の灯台―祈りを通して実際に起こること・体験的事実―」です。演題は上毛かるたのコ「心の灯台・内村鑑三」から引用されました。大川先生は内村鑑三の曾孫になります。大川先生の名前『義』は、文語・新訳聖書・詩編九二編一二節「義しきものは棕櫚の樹のごとく榮え、レバノンの香柏のごとくそだつべし。」からとられました。新共同訳では「神に従う人はなつめやしのように茂り、レバノンの杉のようにそびえます。」となっています。それに続く文語詩編十五節は「エホバの直きものなることを示すべし、エホバはわが巖なりエホバに不義なし」(わたしの岩と頼む主は正しい方 御もとは不正がない、と) 大川先生は与えられたこの名前『義』(ただし)をととても大切にしておられます。そして内村鑑三墓碑銘「I for Japan Japan for the world The world for Christ And All for God」(私は日本のため

日本は世界のため 世界はキリストのため) そして全てが神のため)を紹介してくださいました。何と言っても圧巻は、お母様の臨終の出来事です。意識がなかったと思われたお母様が目をパッチリあけて、見守る子供たちの手を強く強く握りしめた時、大川先生に聖霊がくだりました。大川先生はこのように表現されています。『天と地がつながった天国と自分がつながったのが分った』その後まもなく大川先生は「ヨハネによる福音書四章一六〇一八節」が自分の魂を貫く経験をしします。「わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてください。この方は真理の霊である。世はこの霊を見ようとも知ろうともしないので、受け入れることができない。しかしあなたがたはこの霊を知っている。この霊があなたがたと共におり、これからも、あなたがたの内にいるからである。」大川先生は前からこの聖句を知ってはいたが、魂で受けとめられたのは「母の臨終の出来事」の後なのです。先生からのメール「このお話を聞いてくださった皆さんが『祈ってみたい』という気持ちになれるといいなと願いつつお話ししました。不思議な神様の御業が働くことを期待しています。」

「年配の男の人を叱ってはいけません。むしろ、父親に対するように勧めなさい。若い人には兄弟に対するように、年配の女の人には母親に対するように、若い女の人には姉妹に対するように、真に純粋な心で勧めなさい。」

この非常に具体的な対人関係の知恵は、新約聖書の中でパウロという伝道者が後輩のテモテに書き送ったものです。父母や兄弟姉妹という家族との関わりの中の自分の体験を土台にして、他者との距離や心遣いを持つようにと勧められています。読み手にわかりやすく伝えるように書かれたはずの文章なのですが、現代人にとっては、土台になる家族関係そのものが危うくて、素直に受け取れない場合があるのではないかと思えます。

家族の中で愛されていないと感じていたら、素直な思いをこぼにできない関係しか知らなかったら、そういう人はどのようにして、他者との関わりを学んでいけばよいのでしょうか。

玉川聖学院の中高生の女子たちは、新生会の皆さんとの触れ合いの機会によって、心を育てていただいています。人生の先輩に出会ってお話を伺うとき、自分よりもはるかに長い時間を歩んでこられた方々の言葉から気持ちを汲み取ろうとすることで、疑似家族体験と言ってもよいような、あたたかい

交流を知っていきます。いつも忙しくスマホを見ている若者たちにとって、人と向き合うためだけの時間を過ごすことは新しい体験なのです。新生会に生徒と一緒に伺うと、時間の流れが穏やかになり、自然の美しさにも人の優しさにも心が動かされる思いになるのは私だけでしょうか。

先日、七十歳を越えた本校の同窓生たちが母校を訪ねてくれました。彼らの同期のひとり是在学中の施設訪問等の行事を通して、ボランティアの働き

うれしそうに見せてくれるのです。

若い生徒たちからも、年を重ねた卒業生からも、同じことを教えられます。人は人によって育てられるのです。その出会いがほんの短いものであっても、私たちの存在は、誰かの人生にいのちを与えているのです。それは、家族のようなつながり、家族そのものの関わりが、いつでも学び直すことができるものであることを示しているのではないのでしょうか。

私の母は今年九十歳になり、田舎で

う。

世界が戦争や混乱を繰り返している一方で、豊かで平穏な生活が日本にはまだあります。しかし孤独の中で心病む人は尽きません。そんな中で、私たちの身の回りの事故や事件、病気や老いは、はからずもお互いの距離を近づけたり、それまで見ないふりをしていた課題を突き付けられたりするとき、「家族」や「隣人」という他者との関係に向き合わざるをえないときとなります。それは、関わり方や伝え方を変えることによって、愛されていること、愛することを学び直すようにと、神が与えておられる機会ではないかと思うのです。神に造られた私たちは、そうやって人生のどこかで、他者との関係を問われながら、神との関係についても問われ続けてきたのではないのでしょうか。

兄と暮らしています。一昨年父を天に送り、少しずつ弱くなっていく母ですが、その分、少しずつ弱音を吐いてくれるようになりました。一生懸命無理をして生きてきた昭和一桁生まれの母からは、不満やつぶやきは今までたくさん聞いてきましたが、本当の気持ちを正直に話してもらったことは少なかつたと思います。しかし家族のかたちが変わり、支え合うあり方も変わってくる中で、話せる内容、話したい内容も変化してきたということなのでしょう。

冒頭に引用したパウロの手紙は、「私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませてくださる神」に望みを置くようにと勧めて終わります。聖書の神は、私たちを楽しませてくださる方です。「すべての物」とは、食物や財産だけを指すものではありません。本来私たちに必要なもの、そしていつまでも変わらないもの：信仰と希望と愛を、神は私たちに与えて、本当の人生の豊かさを楽しむようにと招いているのです。

## 論壇

### 「関係を学び直す」

玉川聖学院 学院長 安藤 理恵子

## 特集

## 地の塩・世の光として、《神の愛》に根ざす協働体であること

## 人間の歴史と神の摂理

原 慶子

主よ国々の争いを裁き、多くの民を戒められる。  
彼らは剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする。  
国は国に向かつて剣を上げずもはや戦うことを学ばない。  
ヤコブの家よ、主の光のなかを歩もう。

(イザヤ書二章四〜五節)

## 戦後八〇年の世界的混乱

日本においては第二次世界大戦が敗戦終始して今年二〇二五年で八〇年となります。そして現在、戦争によって廃墟となった大地には高層建築が建ち並び、樹木も大きく成長し、四季折々の自然の変容を楽しませてくれます。一方では貧困層と富裕層の格差は歴然とあり、デジタル上の犯罪や家族崩壊など人間精神の歪みを原因とする悲しい出来事もあります。一九九〇年代以降、世界の至る所での自然災害や戦争がグローバルに起こっています。ミャンマーやアフガニスタンにおける軍事独裁政権と民主主義との熾烈な闘い、シリア

## 戦争と科学技術

## 非戦の思想

においても反体制派が実権を握り、アサド政権は崩壊しました。韓国においても、尹大統領が「非常戒厳令」を宣布し、国内は混乱しています。又、終息には程遠い、ロシアとウクライナの戦争そしてイスラエルとパレスチナの戦争においても、強国のロシア・プーチン大統領の軍事独裁政権の権力は一層強化されています。イスラエルのパレスチナ(ガザ)に対する一般大衆を犠牲にした、ミサイルなどを用いた空爆もネタニヤフ首相のパレスチナに対する憎しみとしか言いようがありません。アメリカではトランプ政権が復活し、民主主義の良識は否定され、新自由・金融資本主義が強化されて行くのでしよう。

世界中を巻き込んだ第二次世界大戦から八〇年、AIそしてデジタルテクノロジーの急速な進化によって、物理的・物象的側面は極限的に進歩しましたが、いずれの国々においても社会的には、恐怖と不安、不信などのネガティブな(人間性の否定)感情が巾を利かせています。二〇一九年から始まったコロナパンデミックもある意味では生物兵器による人間抹殺とも思われます。見え隠れするのは、目には見えない感染症ウイルスと極端なエゴイズム権力機構です。

『偉大な自然はかく語り、従順な人間は服従した。都市がつくられ、社会が生まれた。ここに国家が誕生し、そのそばには別の国家も同様なしかたで成長し、愛と恐怖によって結ばれた。』(イギリスの桂冠詩人アリグサンダー・ホープ)「かくして歴史が始まった」のは一万五〇〇〇年前と推定されます。(「生命40億年全史」リチャード・フォーティ・草思社)すなわちホモ・サピエンス(知恵をもつ人)が地球上において自然の力を借りて共同体としての生活を始めたのが歴史の始まりと言えます。人類は知恵を活用し、たった一万五〇〇〇年位の間、「自然」に挑戦し、科学知識を進化させ、AIや遺伝子組み替えなど「生命科学」(ヴァイオテクノロジー)の進化を成就したので。しかし科学技術の進歩により、地球温暖化など、生物と地球を取り巻く環境は悪化しています。又核武装やミサイルなど人間を使わずに行き出来る戦争テクノロジーも進化し続けています。しかし戦場では、多くの人々が殺され、住む場所を奪われ、難民となり、生活の場所を失った不幸のどん底にある人々も急増しています。科学技術の恩恵を独占的に享受しているのは、政治権力の掌握者と経済的超富裕層のみと言っても過言ではない、二一世紀初頭の世界情勢ではないでしょうか？

人類の歴史は、戦争と束の間の平和の繰り返しという政治権力交代の歴史と、人間社会の個々の繋がりによって成立する共同体の成長という、二つの側面があります。戦争を始めるのは政治権力者の都合と欲望ですが、身を挺して実際に闘うのは国民一人一人です。非戦の思想をはっきりと表明した人として代表的な日本の思想家は「内村鑑三」と「柏木義円」です。各々、聖書に基づいて非戦の思想を展開しています。「内村や柏木にキリスト者としての己の果たしてきた(近代化)が、皮相なもの意識されるには、日清戦争から日露戦争にいたる時期に、日本の支配構造の近代化に対する疑問と、あるべき愚俗の喪失が痛い程感じられることがあつたはずである。」「非戦の思想・土着キリスト者・柏木義円」伊谷隆一)内村も柏木も精神の深みから『非戦』を唱えました。最後に内村の言葉を心に留めてください。『戦いに敗れて精神に敗れない民が真に偉大なる民であります。宗教と信仰と信仰と信仰、国運隆盛のときは信仰の必要もないのであります。しかしながら国に幽暗の臨みしときに精神の光が必要になるのであります。』(「非戦論」富岡幸一郎)



### 第四七回 新生会 老人ホーム祭り

十一月三日快晴のなか開催された新生会祭りは今年も大盛況でした。日用品・家具家電のバザーコーナーは朝早くから開店を待つお客さんの行列。あつという間に売り切れ商品の続出でした。毎年好評の模擬店からは、美味しそうな匂いがして食欲をそそられます。遊び広場やふれあい牧場では子どもたちの笑顔がたくさん見られました。どのブースも訪れた皆さまはとても楽しそうでした。「狐の嫁入り行列」では、花婿・花嫁役は新生会スタッフ。みのわの里の狐の嫁入り実行委員会の皆さまが雰囲気盛り上げてくださいました。

当日の様子は YouTube「新生会チャンネル」でぜひご覧ください。



### 城西国際大学林ゼミ合宿

一月六日(水)から一月八日(金)まで学生六名と訪問をさせていただく機会をいただきました。城西国際大学林ゼミでは、二〇一一年から「老いを考える」と題して福祉を学ぶ学生と新生会を訪問させていただいています。二泊三日と短い時間でしたが濃厚な時間を過ごさせていただきました。参加学生たちは、高校後半と大学前半をコロナ禍で過ごし、多くの学校行事を制限されてしまったので、久しぶりに合宿に参加しました。

しかしこちらの不安をよそに、学生は職員や居住者との出会いはもちろん、榛名の自然、満天の星など多くの喜びがあったようです。新生会でのゼミ合宿を経験すると学生の心に必ず何かが残ります。(私はこれを密かに新生会マジックと呼んでいます)VACで三四年前に私が



訪問した時の感動がいまも忘れられないように、いつかこの経験が大きなく芽吹いて豊かな恵みとなることを信じています。お世話になった皆様に改めて心から感謝申し上げます。(城西国際大学 林和歌子)

### 合同慰霊祭

一月一四日(木)に榛名聖公会にて「合同慰霊祭」が行われました。昨年より従来の規模での開催ができるようになり、今年も県内外より多くのご遺族の方にご参列いただきました。

法人内の各施設にて過ごされ、お亡くなりになられた方々、新生会の霊廟に納骨されている方々を偲び、お祈りを捧げました。皆様に昼食をとっていただいた後は高崎市八幡霊園内の新生会霊廟にて納骨式が執り行われました。その後は無縁仏のお参りをし、全ての日程を無事に終えることができました。



### 心に響く音楽会

移動音楽教室といえば「ここに泉あり」でおなじみの群馬交響楽団。現在も盛んにおこなわれている一方で、アンサンブルの出張演奏会も開催されています。今回は数十倍とも噂される?!応募団体のなかで、見事、新生会が当選!担当者は今年の運をすべて使い果たした模様です。

当日は開場前から待ちきれない方々が各施設から桜が丘芸術ホールへと続々とやってきました。その数およそ100名。超満員の芸術ホールに弦楽四重奏の美しい調べが響きます。定番のクラシックは勿論、ピートルズ、里の秋など季節の曲もしつとりと奏でてくださいました。アンコールのアヴェ・ヴェルム・コルプスでは一緒に歌われる方も数名いらっしゃって、楽団員の方もびっくり。

芸術の秋にふさわしい演奏会を堪能することができました。皆様ありがとうございました。



心の燈台―祈りを通して実際に起こること体験的事実―

十一月二六日（火）に大川義先生（学校法人共愛学園学园长兼共愛学園小学校校長・新生会評議員）による公開教養講座が桜が丘芸術ホールにて行われました。

内村鑑三を曾祖父にもつご自身の名前「（ただし）の由来から始まり、内村鑑三に深い影響を受けた人々の紹介を織り交ぜながら聖書の御言葉の解説をしてくださいました。

病床で数日間目を閉じていた実母が、兄弟姉妹で讃美歌を唄った直後に突如目を開けて、一人ひとりと固い握手を交わし静かに息を引き取った最期の瞬間に天と地が繋がったことを感じた時の霊的体験を語って下さり、感銘深い時となりました。

新生会原慶子理事長より今年度、群馬県功労者表彰を受賞されたお祝いに寄せ植えが贈呈され盛大に教養講座は終了いたしました。



県功労者表彰の受賞を祝福して

21・老福連職員研究交流集会

21・老福連第二二回職員研究交流集会in大阪が、一二月七・八日の二日間にわたり開催されました。新生会からも一〇名の職員が参加し、全国から総勢二五〇名以上の参加者が集まりました。

初日は、桂あおばさんの落語から始まり、基調報告では、『生産性向上』を進めながら、施設に負担を強いる国の政策の問題点について共有しました。特別講演会では、大阪大学人間科学研究科教授の村上靖彦氏の『ケアとは何か』というお話をうかがいました。

二日目の分科会では、全国の施設のさまざまな取り組みの実践報告を聞き、多くの刺激を受け、学びを得ることができました。



クリスマスリース作り

今年も十一月三〇日（土）に心泉の家を会場に新生会のクリスマススを迎える準備がスタートしました。当日は約四十名が参加され色鮮やかな個性あふれるアドベントリースが数多く作られました。

リングのスギ葉は、倉渕の烏川流域森林組合からのご寄付と新生会保全係の協力のもと地元で材料が集められました。また、リース作りは新生会の居住者有志が十名程集まり一つひとつ心を込めて作って下さいました。

有志の方々の中にはこのボランティアの前身の「ロイスの会」の時から続けている方もいて、和やかに楽しくリース作りをされていました。素敵なりーすは教会や老人ホームに飾られました。心より感謝致します。



創意工夫した飾りつけ作業

玉川聖学院キャロリング

今年も、十二月二五日・二六日と、玉川聖学院の皆様が総勢四十三名で、四五回目となるキャロリングに訪問してくださいました。

二五日、新生会各ホームでのキャロリングでは、美しい歌声を披露していただき、また、居住者と一緒に賛美歌を歌い聖夜を祝いました。

二六日は、各施設を訪問し居住者の皆様との交流の中では、玉川聖学院創立六〇周年記念歌をその歌詞に、若者だけでは無く、職員も居住者も共感し共に歌い締めくくりました。とても素敵な、二日間でした。



# ホームアクト

介護付有料老人ホーム  
新生の園

## クリスマス祝会

今回は一月二〇日に行われましたジョージが丘三ホーム合同クリスマス祝会の模様をお届けします。ジョージが丘クリスマス祝会は礼拝から始まります。信者の方以外にも多くの方が集まり、聖書の朗読と讃美歌でクリスマスのお祝いをしました。



厳かな礼拝

礼拝が終わった後には皆さんお待ちかねの豪華なお食事の時間です。毎年ジョージが丘の食養課によるコース料理が振舞われます。フライドチキンやケーキなどクリスマス料理に「子供のころを思い出した」と皆様大変満足されていました。



華やかな祝会

祝会では職員によるクリスマス劇も行われました。今回はスケジュールがかなりタイトになってしまい総練習一度のみで本番を迎えました。出演者並びに照明、音響、ナレーターが一つになり、良い作品が完成しました。終演後も拍手は鳴りやまず会場は感動に包まれました。



迫真の演技！

今年も居住者の皆様に心豊かに楽しんでいただけるよう職員一同努めて参ります。  
(本多大輔)

# 健康型有料老人ホーム マリヤ館

## 秋のバスハイク

今年度の秋のバスハイクは、長野県の小布施に行ってきました。当日は天気にも恵まれ、高井鴻山記念館やおぶせミュージアムなどの美術館の観覧、小布施の街並みを散策しながら栗野かをりに誘われて地元の名産である栗を食べたりと、秋の風景・味覚を楽しみ多くの感動を楽しみ、お土産もたくさん買い充実したよう皆様からは「また来たいね。」との声が上がっていました。



小布施で栗ご飯

秋のお出かけ二回目は、恒例の沼田方面へのお出かけです。沼田でリンゴのお買い物や贈り物の発送をしました。その後、川場田園プラザで、昼食を含めた自由行動



川場田園プラザにて

です。普段食べられない食事に舌鼓を打ちながら地ビールを飲み、秋の行楽を楽しんでいました。

さて、行きは高速道路で目的地に行きましたが、帰りは山々の紅葉や道端の花々を楽しみながらドライブし、道の駅中山盆地によって、ここでも多くのお買い物をしました。

マリヤ館の居住者の方は、ご自身で出掛けられるお元気な方々ですが、グループで出掛けるのを楽しみにしておられます。帰りの車内では「次もよろしくね。」と、いつも喜びの声を頂きます。今回は、秋のバスハイクでしたが、別の季節にも企画したいと考えております。

(原 孝洋)

介護付有料老人ホーム  
穩和の園・桜の園

バスハイク

今年の秋のバスハイクは原美術館にお出かけしてきました。元々は品川区と渋谷市に建てられた美術館ですが、二〇二一年に品川区の方が活動を終え、渋谷市でリニューアルされたそうです。

まずは、ステーキ&イタリアンの「ランデブー」へ立ち寄り、早めのランチです。人気店らしく開店と同時に満席状態。皆さん、思い思いのお食事に舌鼓。群馬のイタリアンは量が多いと言われますが、多分に漏れず、食べきれないわ。と、おなか一杯のご様子でした。



おなかいっぱい

美術館では、まずは広大な敷地と、様々な屋外展示物に目を奪われます。見晴らしも抜群のロケーションです。館内に入ってから圧倒されるような巨大なオブジェや、体感的な趣向を凝らしたものなど、多様な作品に触れます。草間彌生氏の作品展示室では、カラフルな水玉た

ちが天井、壁一面に出迎えてくれて、中央では鏡を使った無限も感じられます。解釈はそれぞれでしょうが、現代アートのポップさと多様な趣を感じる事ができました。



ラブです。

今回も二班体制で実施されましたが、美術館を出ると、一班では、物産、お土産屋さん巡り、二班では喫茶店でゆっくりとしたお時間を、と参加メンバーのリクエストに合わせたアレンジコースとなりました。

帰路は榛名湖経由となりました。一班はあいにくの雨模様で霧の榛名湖となりましたが、(これはこれで、趣深い景色と慰めつつ)二班は快晴で展望台からの景色や紅葉も楽しめたようでした。(中澤一夫)



伊香保を見下ろして

介護付有料老人ホーム  
恵 泉 園

光あれ

今年の秋はとにかく天気にもつわる「記録的」というワードをよく目に耳にしました。一〇月の平均気温は全国のほとんどの地域で二℃以上高いという記録的な高温、台風一〇号は「超ノロノロ台風」と題され、記録的な大雨・暴風を観測しました。ここ恵泉園も例にもれず天気に振り回され、予定していたお出かけを悪天候によって延期したり、例年なら咲いている花が咲かず、やむなく場所を変えたりしました。そんなこんなでバタバタとしましたが、お出かけ先は「前橋聖マツテア教会」に無事に決定。二班に分けて出かけてきました。

二班とも天候に恵まれ、風のない穏やかな陽気の中、車内は期待と緊張に包まれながらも、賑やかなムー



オルガンの音色は色褪せません

ドでした。一班目は福田司祭と関口信徒奉事者が、二班目は福田司祭ご夫妻が直々にお出迎えして下さいました。福田司祭が教会内の見学、聖マツテア教会の歴史を語って下さり、最近新調したという電子オルガンを弾きながら全員で賛美歌を歌いました。荘厳な雰囲気の中に、ひとの温かみを感じる素敵な教会に、一同が感銘を受けました。帰り際には見られないと思っていたコスモスが教会の傍らに咲いており、思いがけず観賞することができました。

おかげさまでここ数ヶ月続々と入居していただき、恵泉園にとっても「記録的」な入居率になっていきます。聖マツテア教会で感じた温かみと、帰りながら感じたコスモスを抜ける爽やかな風を心に留め、まだ見ぬ入居者の方を待ちたいと思います。(新井溪司)



前橋聖マツテア教会にて

軽費老人ホーム  
バルナバ館

秋のランチツアー・小さな旅

十月三〇日、コロナ禍で行けなかつたランチツアーを再開しました。晩秋とは思えないほどの暖かな一日となり心弾むスタートとなりました。

行先は前橋にあるホテルサンダーソンの天津楼・菜々久。なんといつでも最上階七階から見える景観は素晴らしく県庁と周辺の木々・利根川のマッチングは絵になる光景。ホテルの看板にも「景観よし」と書かれていたのに納得。後日この風景をある方に描いていただきました。景観よし、素敵な作品に仕上がりました。しみじみと見入ってしまいました。(十一月梅香ギャラリー展示)

予約した飲茶セット等本格的中華料理に舌鼓を打ち、締めのコーヒーをいただき、緩やかなスケジュールの工程は、大和屋とコンビニでのショッピングへ。其々の思いやお話を伺う機会に恵まれ、楽しい旅でした。さて、来年の小さな旅は何処に？楽しい企画をお楽しみに！



ホテルのロビーにて記念写真

サンタクロースがやってきた

一二月一〇日、音楽鑑賞会のクリスマスバージョンで一足早いクリスマスの時を居住者の皆さんと共に過ごしました。

第一部は、今年もサンタクロースが仲良しのトナカイさん達を引き連れ、素敵なプレゼントが当たるビンゴゲームを行いました。サンタさんとトナカイさんがいるとなぜかホットな気分になりますね！

第二部はビング・クロスビーのホワイト・クリスマスから始まりました。その甘い歌声に酔いしれ、三部の森山良子のクリスマス名曲集を鑑賞。その柔らかく優しい歌声に心まで温まりました。選曲は豊永清様・康子様をお願いしました。

最後は恒例となった「きよしこの夜」を小野きよみ様のオルガン演奏で、清くそして美しく歌うことが出来ました。心あたたかな一時に感謝！



サンタと共に！

(山崎祐子)

軽費老人ホームA型  
榛名春光園

オシャレ洋品「中川屋」来園

いつまでも美しく魅力的な女性であって欲しい！その想いで開催したのがこの企画。中川屋は市内にある創業一三三年を迎える老舗洋服店です。当日はオシャレな衣類を、お気軽に園内で購入できることもあり、春光園ロビーは某デパートのブティック売り場？へと大変身。購入者からは「元気をもらったわ！」、「これからは沢山オシャレをしてお出かけするわ！」、「私はセレブよ！」と目を輝かせながらお話をされました。

今後、多くの春光園の居住者は、銀座の貴婦人と引けをとらないファッションセンスとなることでしょう。どうぞ皆様、春光園界限へお越しの際は「美人にご注意下さいね！」



このイベントは、今後も定期的に行う予定です。法人内の皆様のご来店もお待ちしております。

(長坂直哉)

秋のバスハイク

今回のテーマは「芸術の秋」とのこと。埼玉県所沢市にある角川武蔵野ミュージアムへ行きました。斬新なデザインの大岩のような建物が住宅街から突如現れ、参加者からは「これがミュージアムなの？」と第一印象からバツチリ心を掴みます。

いざ入館すると、そこはまさにデジタルアートの世界。ハンモックやクッションに座り寛ぎながらモネの世界を旅する感覚は初めての経験となり、ゆったりと浸る事ができました。そして、高さ8mの巨大な本棚劇場は圧巻の一言!!プロジェクションマッピング上映には目を輝かせながら見上げられ、映像技術の進歩を身体全体で感じる事が出来ました。

ご参加された皆様は、知的好奇心をくすぐられ、世界で類を見ないミュージアムに行く事ができ、大満足のご様子でした。



奥に見えるのがミュージアムなんです！

(井上章子)

特別養護老人ホーム  
榛名憩の園

藤の会 来園

令和六年十一月十二日、立教女学院の保護者会「藤の会」の皆様が、今年も来園してくださいました。

丁寧な作りで気品にあふれた食事用エプロン、色とりどりの花柄の椅子カバー、キレイで上品な物ばかりなので、これは感謝しながら汚さないように使わないといけないですね。  
(下平友規)

冬の葉も見事に色づく季節がはじまりました。立教女学院では子どもたちからクリスマス準備が始まっています。保護者の皆様からご予約いただいた、工品や食品も送らせていただきます。榛名憩の園の皆様との縁を大切にしたい事に感謝し、お祈り申し上げます。立教女学院 藤の会 春仁堂夏会

藤の会の皆様からのお手紙



気持ちのこもったプレゼント



BCPってなに???

「BCP訓練、始めました」  
令和六年度に入り、介護事業所においてもBCP（事業継続計画）の策定と訓練が本格的に始まりました。新型コロナウイルスをはじめとした感染症だけでなく、地震や大雪といった自然災害にも迅速に対応するため、様々なケースを想定して行う必要があります。先日、榛名憩の園においても『災害時のトイレ』をテーマに訓練を実施しました。災害時には水が使えなくなる断水状態に陥る可能性があります。その為、水を使わないトイレの方法を映像で確認し、実際に簡易トイレを使用して必要な物品と手順を確かめていきました。災害は何時、どんな規模で発生するかわかりません。被害に遭わないのが一番ですが、被害を最小限に抑える為、私たちも備える必要があると改めて感じた一日でした。  
(沼崎翔平)

特別養護老人ホーム  
誠の園

心温まるクリスマス会

今年のクリスマス会は笑顔がいっぱいの楽しいイベントでした。ホールの入口には居住者が職員と一緒に製作したお菓子の家がお出迎え。

会のスタートは鈴木育三さんによるクリスマスのお話し。会食を挟んで年末福引大抽選会。当たった方の歓声と外れてしまった方のため息が入り交じった会場は大盛り上がり。

メインは梅香ハイツの方々で結成された【トーンチャイム】サークルと【ヒマナスターズ】による演奏会。

トーンチャイムは以前からサークル活動が行われていましたが、その美しい音色に魅了された七名の方が伝統を守っております。

ヒマナスターズとは榛名ふれあい公園等で個人練習を重ねていた五名が運命的な出会いの中で結成されました。



美しい音色



心温まるお出迎え



素敵な演奏

それぞれが奏でる音色はいつくしみ深く、荒野の果てにも響きわたります。しかしその音はどこか懐かしく、故郷の空を思い出すような心地よさがありました。榛名の山々に囲まれたこの場所の人気者達による演奏会は天に栄えるように厳かでありながらも、最期は会場の全員できよしこの夜を大合唱。みんなの心が一つになり、クリスマスをお祝いする事ができたと感じます。

今回は梅香ハイツの方々と一緒に過ごしたクリスマス。誠の園からのオフアートを快く引き受けて下さった二つのサークルの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。居住者と一緒何かを作り上げる事で、その方々の持っている可能性を引き出し、より良いケアが行えると感じました。今後皆様のお力を借りて、居住者と共に過ごして参りたいと思っております。  
(佐野仁久)

特別養護老人ホーム  
エンジェルホーム

ハッピーメリークリスマス  
今年もエンジェルホームにクリスマスがやってきました。ホームはクリスマス飾り付けでクリスマスムード満点！手作りのツリーや暖炉も見事な出来栄です。

今年のクリスマス会には、スペシャルゲストをお呼びしました。三人のキッズサンタです。可愛い姿に居住者の皆様も自然と笑顔になりました。

園長の挨拶で始まり、さっそく、クリスマスケーキの登場です。今回は、チョコレートのサンタに苺とチョコクリームたっぷりのケーキをご用意！乾杯と共に召し上がっていました。ケーキはおいしいと好評でした。

次は、キッズサンタと職員による出し物です。手作り暖炉からキッズ



手作りの暖炉はダンボール製



スペシャルゲストの  
キッズサンタ達♡

サンタが登場！ジングルベルの歌に合わせて楽しく元気に踊ります。続いては、信澤ケアワーカーのソロライブです。ギター片手にクリスマスソングを歌う姿はカッコ良く、素敵な歌声を響かせてくれました。

クリスマス会も盛り上がったところで、お楽しみみのクリスマスプレゼントが贈られました。担当の職員が、居住者お一人おひとりのことを思い、選んだ心のこもったプレゼントです。皆様とても喜んでくださいました。

今年も居住者の皆様と一緒に楽しくクリスマス会を過ごすことができ、うれしく思います。これからもエンジェルホームの皆様幸せの星が降り注ぎますよう、職員一丸となり努力してまいります。二〇二五年も皆様にとって幸多き一年でありますように：メリークリスマス！

(閑忍)

HALC自然学校

お散歩&お出かけ企画  
新生会HALC自然学校が活動支援をしている、はるな自然体験クラブでは、毎月数回の「お散歩自然観察会」を行っています。

施設周辺をお散歩しながら植物や動物などを観察しています。自然観察初参加の方から講師もビックリのプロ級の知識を持つ熟練者まで経験値は様々ですが、外部講師と協力ボランティアのお二人の、親しみやすいお人柄が人気を呼んで会員希望者が年々増え続けています。

隔月実施のバスで行く「お出かけ自然体験」が目立ちますが、最近ではお散歩企画限定で参加する方もいるほど、注目度が増しています。

主に新生会周辺のお散歩ですが、時には公用車を利用して榛名湖や近隣施設へドライブしながら自然を堪能することもあり施設横断型の会員制クラブならではの横の繋がりもあって皆さん和気あいあいと楽しんでおられるようです。



生き物をじっくり観察する

十一月二十二日(金) 会員二十一名とスタッフ六名の全二十七名。十一月二十七日(水) 会員十六名とスタッフ七名の全二十三名が参加して群馬県桐生・大間々方面、渡良瀬渓谷と富弘美術館へ行ってきました。両日ともに最高気温二十度と、この時期としては異例の暖かさでした。

今秋は気温が高く、あざやかな紅葉という場所が少ないようですが、この度の渡良瀬川中流にある高津戸峡(関東の耶馬溪)では、「はねたき橋」から紅葉を楽しみました。午後は「富弘美術館」をゆっくりと鑑賞です。生前の星野富弘さんのビデオも視聴し素直な表現や草花を通してささやかな喜びを見つめる作品に心の深いところで暖かさを感じました。

(稲垣 仁)



はねたき橋紅葉の下で



生きることは・・・

## ウエルカムセンター

点滴穿石（てんてきせんせき）

点滴穿石とは、小さな水滴でも長く一点に落ち続けられ、硬い石に穴を開けることができる様子から、「小さな努力でも積み重ねれば大きなことを成し遂げる力となる」という意味を持つ四字熟語です。

ウエルカムセンターは、施設やサービスをより充実させることを目標にしてきました。

特に今年は、少しずつではありませんが、宿泊室のリフォームや温泉浴場設備の改善、食堂のメニューや衛生管理の見直しなどを行い、お客様により快適で満足して頂ける環境を整えることを目指してきました。

そんな中、嬉しいことがありました。センターの温泉施設に手すりを付けてくださいと、ご寄付を頂きました。そのおかげをもちまして高齢者施設に付帯する施設として、十分であった浴室の手すりの追加工事が出来ました。それだけでなく老朽化していた浴室洗い場の鏡の更新工事も出来ました。

利用される方々から、多くの喜びの声が耳に届きます。

浴室に、手すりが増えるということとは、派手でもなく、大きな事でも



改修された浴室

ないかもしれません。それでも、こういった地に足の着いた利用される方々の快適さにつながる小さなことの積み重ねこそが、大きな満足やサービスの向上につながると考えております。

そうして、施設側からの一方通行ではない利用される居住者の皆様と一歩一歩と一緒に歩んでいくことが新生会の特色の一つだと思っております。時には、意見の相違もあるかもしれませんが、時には、意見の相違もあるかもしれませんが、これからも点滴穿石の精神で、職員一同、ウエルカムセンターを魅力的な施設にしていく覚悟です。

（原 孝洋）

居宅介護支援事業所  
フィリアいこい

日々、勉強・・・

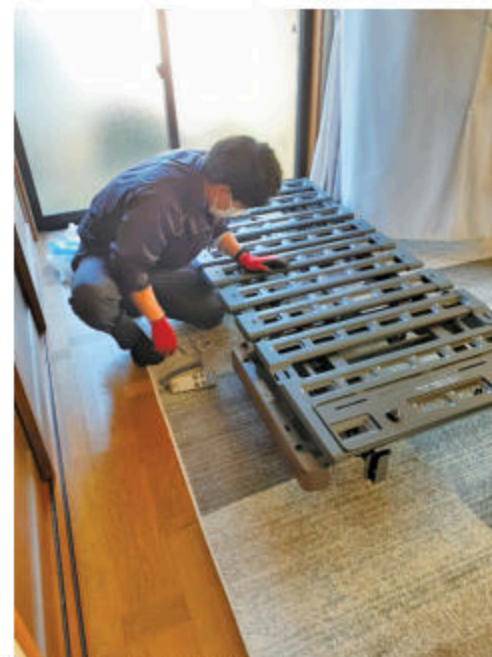
私は、居宅介護支援事業所へ異動し、二年となります。日々迷うことが多くありますが、ベテランケアマネージャにご指導いただきながら日々勉強しています。今では、たくさんの方々の事業所の方々の協力やご利用者の笑顔で楽しく支援させていただいています。ご利用者の中には、ご病気を抱えている方や独居、高齢者の夫婦世帯など様々で不自由さや不安を抱えながら「どんなところでも自分の家が一番いい」と言い、ご家族の協力や介護サービスなど利用し自宅での生活を希望される方が多くいらっしゃいます。



毎日楽しく生活しています。

利用者の方の中には、私がケアワーカーをしていた頃お世話になった元職員や新生会の施設に居住してい

た方のご家族とご縁があり再会することがあります。数年ぶりの出会いでも笑顔で声をかけていただき、心温まるつながりを感じることがあります。



いつもお世話になっています。

担当させていただいている方で、私が新生会へ就職した時からお世話になっているTさんがいます。訪問に行くと、今でも若いころの様に接してくださいいます。Tさんは、温泉やカラオケを楽しみ、ご家族やご友人に囲まれ元気に生活しています。また、高齢のご夫婦でけんかをしながら仲良くご自宅で生活されていますが、ご主人が急逝されてしまいましたが、施設での生活となった方、九〇歳を超えて元気に生活されている方などいらっしゃいます。

これからも、皆さんが笑顔あふれる日々を過ごしていただけるよう支援させていただきたいと思っております。

（長濱弘子）

# こかげ

## 「厚生労働大臣表彰」受賞

この度、誠の園の若林毅園長と、  
榛名憩の園の大澤敦子ケアワーカー  
が令和六年十一月二六日に厚生労働  
大臣表彰を受賞しました。

お二人とも受賞おめでとうござい  
ます。これからも、居住者にとって  
より良いケアをつづけて、後輩の鑑  
としてカッコいい園長、ケアワーカー  
でいてもらいたいと思います。



榛名憩の園  
大澤 敦子 ケアワーカー



誠の園  
若林 毅 園長

## 新 生会 人 紹介

- ① 出身地
- ② 職種
- ③ 趣味・特技
- ④ 好きな有名人
- ⑤ 自分にとって一番の贅沢は
- ⑥ 好きな言葉

### ジヨージが丘食養課

内藤 英和 (ナイトウ ヒデカズ) 48



- ① 長野県千曲市
- ② 調理師
- ③ DVD鑑賞
- ④ 真田幸村、堺雅人
- ⑤ 貸切露天風呂
- ⑥ 人にやさしく

### 榛名憩の園

小林 亮太 (コバヤシ リョウウタ) 27



- ① 群馬県高崎市
- ② ケアワーカー
- ③ 読書、ランニング
- ④ 大谷翔平
- ⑤ 月1回旅行に行つて美味しい物を食べる
- ⑥ トライアンドエラー

原田 映美 (ハラタ テルミ) 50



- ① 栃木県那須塩原市
- ② 清掃業務
- ③ キャンプ、スノボ、ピアノ、習字
- ④ 佐藤健、大杉漣、EXILE AKIRA
- ⑤ おいしい物を食べている時
- ⑥ 一期一会

## 新生会ウエルカムセンター

春田千津子 (ハルタ チツコ) 62



- ① 群馬県高崎市
- ② ケアワーカー
- ③ ドライブ、孫と自転車に乗る
- ④ 福山雅治
- ⑤ 温泉に入る
- ⑥ ありがとう

## 誠の園

石井 佳子 (イシイ ケイコ) 64



- ① 群馬県吾妻郡
- ② 清掃業務
- ③ DVD鑑賞、読書
- ④ 伊勢正三
- ⑤ 1年に2回のお泊まり女子会
- ⑥ 笑顔と感謝



榛名春光園  
ソーシャルワーカー  
長坂 直哉さん

さて、問題です。「夏は黒くて、冬は白くなるものはなあに？」。  
答えは、今回、登場の長坂直哉君、そのひとである。  
高校からラグビーを始めた彼は、大学に進んでもラグビー一筋！。大学を卒業してからは、地元高崎市内で、夏は真っ黒に日

## もうひとりの私<sup>129</sup>

彼の姿を目にすることも多い。  
そんなマッチョでストロングなラグーマンの長坂君にも実は弱点がある。  
スタッフルームで、彼の席を取り囲む女性陣からの「昭和の大人の会話を投げかけられては、いったい何て返してよいのか？」と、目を白黒させて七転八倒・四苦八苦という、楽しくも苦戦する毎日を送っていることである。また、自身では「『キムタク』に似ている！」と広言しつつ、榛名春光園の女性入居者へは、館内で出会う度に甘いささやきをしている、という真偽不明の噂もある。  
そんな長坂君だが、仕事ではラグーマンの晴れ男らしく、爽快到榛名春光園のメンバーと共に、スクラムを組んで、日々、猛進中なのである。

焼けしつつ、少年・少女たちにラグビーの素晴らしさや楽しさ、そしてマナーを伝えるラグビーの伝道師として活躍中である。  
そして、職場での昼休みには、新生会周辺の榛名の山坂道をものともせず、上り下りして走る



新生の園  
武藤 陽一さん  
(九七歳)



武藤さんは一九二七年五月に東京にお生まれになりました。東京府立第二中学校夜間部に在学中に海軍飛行予科練習生に志願、訓練終了任官後は特攻機要員として勤務されました。敗戦後進駐軍労務者、外務省文書課（英文タイプ）勤務、キリスト教会牧師を経て英語教室を自営、大学や英語学校の非常勤講師として勤められました。またこの間に通信教育で慶応大学文学部を卒業。戦後は長年にわたり英語教育とキリスト教に関わるお仕事をされてきました。

「内村鑑三のキリスト教に出会ったことで今日の私がある」とお話しされる武藤さんは戦中特攻機要員であった頃、戦争の悲惨さを肌で感じ、何とか平和な世の中に生きることが出来ないかと過ごす中で山本泰次郎氏（内村の直弟子）に出会いました。山本氏と内村鑑三の「教文館版全集」の編集に携わり、その信仰と「非戦論」を学ばれました。そして無教会

の各種聖書学習活動に講師として参加、ご自身でも執筆をされたりと活動してこられました。

新生の園へいらしたのは令和三年十月。新生会とのご縁

は、奥様の体がだんだんと弱くなり、今後のことを考えていた際に「婦人之友」に載っていた新生会の広告をたまたま見て問い合わせをしたことがきっかけだったそうです。東京YMCA 英語学校に勤めていた際と同僚や、婦人之友社に勤めていた奥様の友人が新生会に関係する方々との繋がりがあったこともあり、奥様とご一緒に入居されました。令和五年一二月に奥様が帰天され、その思い出と共にご自身の日々を活動的に新生の園で過ごされています。

武藤さんはおっしゃいます。「キリスト教信仰においても様々な形があり、私は無教会として活動してきましたが、今は榛名聖公会へ通わせていただいています。大切なことは決まりごとがあってもなくてもその人がその人らしく平和に生きることだと思っています。ここでは家内が最期まで本当にお世話になりました。私が今いるのも皆さんのおかげです。」と。新生の園での日々を今まで通り武藤さんらしくお過ごしただけできるようこれからもお手伝いさせていただきますと思います。



WONDER CREATIVE BASE  
四元 浩樹さん



『デザイナーからケアワーカー、そして独立へ…。』  
四元さんは二〇二四年十一月から新生会の広報活動を担当していただいております。主にSNSを使った職員募集や居住者募集、新生会の情報発信をお手伝いをしていただいております。更に今後はホームページも新しくなる予定ですのでご期待ください。

四元さんは群馬県渋川市の出身で、専門学校を卒業した後には前橋市の印刷会社のデザイナーとして業務されました。チラシや広告、看板などのデザインをメインに制作する傍ら、イベントのフライヤーやレーベルロゴの作成、CD/DVDのジャケットデザイン、イベントで使用する動画編集も手掛けられていました。大手家電メーカーや自動車メーカー、不動産の印刷物やWEBページ制作も行い、順調にキャリアを伸ばしていましたが、時代はコロナ禍。将来を見据え「このままこの仕事を続けていくことがよいのか？」と考えるようになったそうです。そして

家族会議の結果、約十七年勤務を続けられた会社を退職。パソコンに向き合う仕事を長くしてきたので全く違う仕事をしてみようという「介護職員初任者研修」を受講し、一年間病院、老健施設で介護職を経験されました。そこでの学びと経験から「やっぱり自分はデザインを通して人と関わる仕事がしたい」と考え、二〇二二年『WONDER CREATIVE BASE』を立ち上げられました。WEBデザイン・グラフィックデザイン・動画編集をメインに活動され、二〇二三年からは群馬県商工会連合会のエキスパートバンクの専門家として県内二〇社以上のサイト制作や集客のWEBコンサルを行っています。そんな四元さんは「新生会に来て職員の方と触れ合うと、とても元気をもらえるし、仕事をしていてとても楽しい。」と話されています。四元さんと手がける新しい新生会の広報活動は現在 Instagram、YouTube などで見ることが出来ます。老人ホームの魅力発信、新生会のことなどをドンドン発信していきますのでどうぞお楽しみに。

文 芸

梅香ギヤラリー

絵画教室 作品展



雨上がり (五味英子)



犬と雪だるま (五味英子)



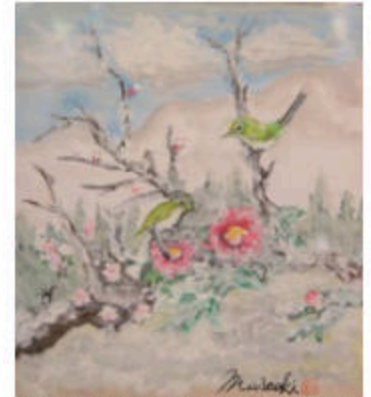
ノイシュバンシュタイン城 (豊永 清)



利根川 県庁 赤城山 (豊永 清)



誕生のお知らせ (武 公子)



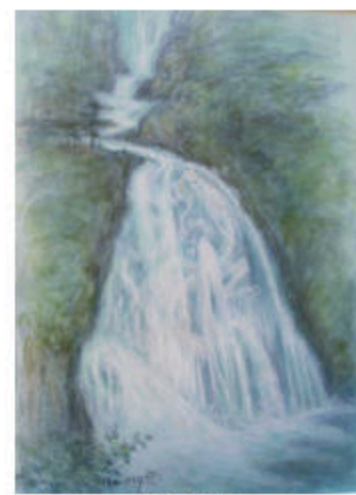
春のゆき (小幡正昭)



ふきのとう (五味英子)



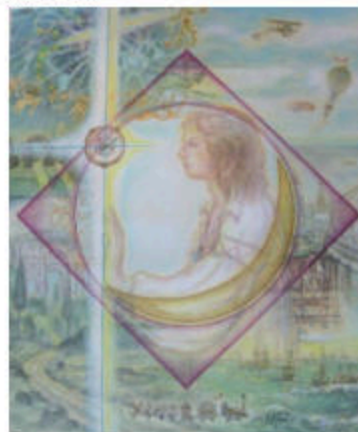
子供の頃 (小幡正昭)



昇り竜 (顧問 渡辺香代子)



晩鐘 (武 公子)



時空の旅 (顧問 渡辺香代子)



歩きはじめ (武 公子)

絵画教室参加者募集中  
開催日時：月1回  
第2木曜日9：30～11：30  
詳細は法人本部まで  
(TEL：027-374-1511)

詩 歌



ケアに生きる (155回)  
梅香ハイツ バルナバ館  
ライフサービス課チーフ 一場 寿子

今から十六年前、新生会で行っていたホームヘルパー二級養成講座を受講しました。何か役に立つ時がくるかなと思っただけです。約半年間、福祉や介護について学び無事修了証をいただきました。折角勉強したのだから忘れないうちにと、一

緒に受講した仲間と新生会へ就職しました。週一回から始まった新生会での仕事。生活支援ハウス清泉の生活援助員として八年間お世話になりました。入居されていた方は、自立されていた方が多かったので、お話をしたり、お部屋の掃除のできない所をお手伝いしたり、天気を

見て、皆さんとお散歩に出かけたりしました。そこで一緒に働いていた職員の背中を見て、色々学ばせていただきました。今私は正職員になり、梅香ハイツバルナバ館に異動して七年目になります。バルナバ館に入居されている方は、自由に外出、外泊をされ(コロナ禍で制限もありましたが)元気に過ごされています。入居年数が長く、八十歳後半、九十歳代の方が仰るのには、

「年々、今までできていた事ができなくなってきた。無理をしないで、あなた達にお願いするわ」とのこと。そのような声にお答えするのが今の私の仕事だと思っております。居住者の皆様がつもと変わりなく過ごされている姿に安心し、人との関わりがうまくいかない時もあります。周りの職員に支えられ、また居住者の皆様から励ましの声をかけていただき、そこから元気をもらって日々勤めております。

尻尾ふり、前行くそののなきぞ哀しき

オーサム

風花や上州暮らしも九年目に  
春よ来い藪の笹子の小声かな  
福田 絃晴

富弘さん会いに来ました秋の日に  
山の幸杉の葉木の実とり揃え  
あなたはここに神さまと  
マリヤ シュガー

一応夫婦(10月22日)で60年  
星空にダイヤを数えて乾杯す  
丸山 輝雄

愛犬(その)逝きて 笠井 昭次  
氷雨ふり主なき犬ベットただひとつ  
そのチャンの空のベットや夜寒し  
そのチャンは何処に行きしか小夜時雨  
寒風に耐えて花咲くマンサクは  
去年の憂いを吹き払い  
憩泉

新生日誌

〈10月〉

- 10日 睦会職員日帰り旅行 劇団四季第1班 26名参加
- 17日 道路愛護清掃
- 18日 はるな自然体験クラブ お散
- 22日 歩自然観察会 午前の部…7名参加
- 22日 はるな自然体験クラブ お散
- 22日 歩自然観察会 午前の部…6名参加
- 30日 睦会職員日帰り旅行 東京デイズ二ーリゾート 20名参加
- 30日 はるな自然体験クラブ お散
- 30日 歩自然観察会 午前の部…10名参加
- 30日 歩自然観察会 午後の部…1名参加
- 3日 新生会祭
- 6日 はるな自然体験クラブ お散
- 6日 歩自然観察会 午前の部…5名参加
- 11日 睦会職員日帰り旅行 富士急ハイランド 13名参加
- 14日 はるな自然体験クラブ お散
- 14日 歩自然観察会 午前の部…12名参加
- 19日 合同慰霊祭
- 19日 ふれあい花壇の花植え
- 19日 特定業務従事者健診
- 22日 はるな自然体験クラブ お出
- 22日 かけ自然体験

〈11月〉

- 26日 秋のわたらせ渓谷と富弘美術館を巡る旅第1班 21名参加
- 26日 公開教養講座 演題「心の燈台」―祈りを通して実際に起こること 体験的事実― 講師：大川 義先生
- 27日 はるな自然体験クラブ お出
- 27日 かけ自然体験
- 28日 秋のわたらせ渓谷と富弘美術館を巡る旅第2班 16名参加
- 28日 睦会職員日帰り旅行 劇団四季第2班 27名参加
- 29日 職員採用試験
- 30日 クリスマスリース作り
- 3日 職員採用試験
- 4日 はるな自然体験クラブ お散
- 4日 歩自然観察会 午前の部…6名参加
- 6日 睦会忘年会 於：ザ・ジョーリアンハウス 1997

〈12月〉

- 7日 21・老福連第22回職員研究交流集会 in 大阪
- 7日 1日目 全体会・交流会（ホテルマイステイズ新大阪コンファレンスセンター 6名参加）
- 12日 2日目 分科会（大和大学 10名参加）
- 12日 はるな自然体験クラブ お散
- 14日 歩自然観察会 午前の部…5名参加
- 14日 午後部の部…2名参加
- 14日 介護×体験 1 day インターシップ 参加者10名
- 19日 榛名春光園クリスマス祝会
- 20日 ジョージが丘クリスマス祝会
- 23日 はるな自然体験クラブ お散
- 23日 歩自然観察会 午前の部…3名参加
- 23日 桜が丘クリスマス祝会
- 25日 玉川聖学院によるキャロリング

外聖席志援団

―新生会後援会便り―  
 新生会を支えてくださる皆様へ新年のご挨拶を申し上げます。  
 年末年始にたくさんの方々から、温かいご寄付をお寄せいただきましてありがとうございます。引き続きご支援ご協力をお願い申し上げます。  
 皆様にとってご多幸がありますようお祈り致します。  
 HALCセンター建設のための特別募金累計 16,874,128円（2024年12月末日現在）

新生会後援会加入のご案内

- 個人会員 年間会費 1口 1,000円以上、毎年ご寄付して下さる方。
- 法人会員 年間会費 1口 10,000円以上、毎年ご寄付して下さる方。

募金の結果や用途につきましては小冊子「感謝録」にて毎年報告させていただきます。

**寄付方法**  
 郵便局からの振込み 振込口座 00160-6-48594  
 加入者名 新生会後援会  
 銀行からの振込み 群馬銀行室田支店普通預金 0075469  
 名義 新生会後援会会長 中澤宏則

所得税等の減免手続きをご希望の方は、ご寄付くださる際にその旨を申し出てください。社会福祉法人新生会より寄付金領収書をお送り致します。

ホームページ <http://www.sinseikai.org/>  
 E-mail [human-office@sinseikai.org](mailto:human-office@sinseikai.org)

編集後記

二〇二五年を迎えました。干支を正確には「乙巳」、この「乙巳」には「多くの方が成長を見せようと結果の芽が出始める、早い人では極限まで芽吹く」というような年になると言われています。  
 人口減少が進み、深刻な人手不足と叫ばれている状況の中、新生会では昨年一月よりリクルート委員会が発足され、現場の職員が学校訪問や説明会、イベントなどに積極的に関わり、今まで以上に職員募集のリクルート活動に取り組んでいます。  
 昨年行われた衆議院選後、国会では年収の一〇三万円の壁、一〇六万円の壁等年収の壁について審議されるようになりました。年収の壁の変更に人手不足の解消に繋がることを期待しつつ、新生会のリクルート委員会の活動の成果が芽吹き、大きな実りとなりますよう願っております。  
 （關根 明子）

新生 第47巻 冬 号  
 発行日 令和七年一月二〇日  
 編集兼 社会福祉法人新生会  
 発行人 原 慶子  
 〒370-3347 群馬県高崎市  
 中室田町五九八三  
 電話 〇二七(三七四)一五一一  
 ……………  
**表紙の写真**  
 シラサギ…九十九川にて  
 榛名春光園 松村康さん撮影